

新学科長挨拶

■ 薬剤師と研究マインド



薬学科長

滝口 祥令

Yoshiharu Takiguchi

社 会が今求めているのは、生涯学び続け、どんな状況にも対応できる人材です。薬学部では、広範な知識と融合的発想が求められる薬学の分野において、自らの力で多様な進路を切り開いていくことができる徳島ブランドの人材・インタラクティブ

YAKUGAKUJIN の育成を教育目標とし、薬学科では薬の専門家として多方面で活躍できる研究指向型薬剤師の育成を目指しています。社会のニーズや医療環境の変化に伴い薬剤師職能を発揮する場が広がる中で、薬剤師に求められる重要な資質の一つは、修得した広範な知識や技術の本質を良く理解し、時に明確な答えのない医療の場において科学的根拠に基づいて最善の答えを導き出すことです。この様なサイエンスに立脚した問題解決型人間に必須なのが、研究マインドです。研究マインドは卒業研究だけでなく、日々の学習を通して養うことができます。そのためには、学習内容の確認と理解を深化させる、“?”の気づきとその解決に向けて探求、思考する主体的な学習習慣を身につけることが大切です。

習慣は第二の天性なり。研究マインドを育む主体的学習習慣は、一生涯の財産となります。

四国は「志国」とも表記できます。徳島の地で、大きな志（目標）を持ち、自らの人生を切り開く力となる知識、汎用的能力、研究マインドをしっかりと鍛えてください。そして様々なことにも積極的に挑戦して欲しいと思います。多くの経験は視野を広げ、人との出会い、良き友を作るチャンスです。そんな充実した学生生活を過ごし成長した皆さんを、社会は待っています。

今年3月に実施された第98回薬剤師国家試験では6年制2期生41名全員が合格し、現役合格率100%を達成しました。今後研鑽を積み、徳島大ブランドの薬剤師として社会の期待に応える活躍を、期待しています。

■ 「楽観主義」で充実したキャンパスライフを！



創製薬科学科長

佐野 茂樹

Shigeki Sano

新 入生みなさん、ご入学おめでとうございます。平成25年度のはじめにあたり、学生みなさんへ「楽観主義」というキーワードを提示したいと思います。2010年にノーベル化学賞を受賞された根岸英一先生は、恩師であられるハーバート・チャールズ・ブラウン先生から、研究

者として「永遠の楽観主義 (Eternal Optimism)」の重要性を学んだと語っておられます。実験に失敗はつきものです。失敗の連続で、良い結果が全く得られない時、意気消沈して次もまた失敗に終わるような気がする…とってしまうのは「悲観主義」です。実験を何度試しても失敗ばかり続いているけれど、失敗は成功するために必要なステップであり、次こそはきっと成功するに違いない…とってチャレンジするのが「楽観主義」です。その結果がノーベル化学賞の受賞につながったというわけです。フランスの哲学者エミール・オーギュスト・シャルティエは、アランというペンネームで執筆した「幸福論」のなかで、「悲観主義は気分であり、楽観主義は意志である」と述べています。何もせずにまわりの状況にただ身を任せ、情念に支

配されてしまうと、人間は必ず悲観主義に陥るといのです。けれども、そこで意志を働かせ前向きに考えることで、自分自身の行動も前向きになり、すべては良い方向に動き出します。これは何も実験に限ったことではありません。充実したキャンパスライフのために、「永遠の楽観主義 (Eternal Optimism)」で物事に対処することをおすすめします。「幸せだから笑うのではない、笑うから幸せなのだ」は、アランの「幸福論」の有名な一節です。自ら考え能動的に行動する意志の力で、学生生活を大いにエンジョイしてください。創製薬科学科では、みなさんの知的好奇心を大いに刺激し、世界の生命科学・創薬科学に貢献する人材の養成をめざします。